

TREND
WATCHING
HUMANトリアル南大阪店の
柴田淳子ちゃん(20才)だ。

ついに出現!! (たぶん)チューニング業界初の女性メカニックだ!

女性の社会進出がめざましい、なーんて別に今に始まったことじゃないけど、ついにってというか、マジイ!? ってというかチューニングショップにも女性メカニック出現だ。ネタに困った拳げ句のヤラセじゃないぞ。これが本当の話なのだ。ウソだと思ったらトリアル南大阪店に見に行ってみよう。

なんでまた女の子がメカニックになるなんて考えるんだろう……いくら不況だってもっと女の子らしい勤め先がありそうなもんだが……。えっ!? 女の子らしい仕事なんてイヤ? メカニックになりたいんだって?

ふ〜ん……なんで? おじさんは理解に苦しむな。

と、いうわけでトリアル南大阪店に女の子のメカニックが現れたのだ。同じおじさんとしてマッキー牧原さん、どう思いますか?

「彼女が初めて店に来たのは、もう1年以上も前になるかなあ、お客さんとしてパーツを買いに来たんや。それから何回も店に来たけど、そのころの彼女には“女を感じさせない娘”という印象があったな。今もそれは変わらないけど、で、しばらくするとウチでメカニックとして働きたいって言い始めて、最初は女の子にはムリやって断ったんやけど、半年くらいしてまた働きたいって来たんや。聞けばその半年の間にタイヤショップでタイヤ&ホイールの交換程度だけメカニックやっとなんか、そこまでやりたいんならってことでウチで働いてもらおうかって……」

ディーラーのメカには、ときどき女の子を見かけるけど、チューニングショップでは初めてじゃない? つく



メカニックって奥が深い。色んなことを知るたびに車がどんどん好きになるんです。



「休みの日は、峠に走りに行きます」車三昧の毎日、彼氏募集中だっ



づく時代も変わったもんだなあ。彼女にもインタビューしてみよう。

「高校(工業高校 化学科)3年のころから車のメカニックやってみたくて思ってたんです。卒業してしばらくは薬品関係の会社でおとなしくOLやってたんですけど、やっぱり違う……私がやりたいことはこれじゃないって。じっとしてるのが嫌いなんです。体を動かしていないと落ちつかないんです。それでトリアルにお願いしてメカニックとして勤めさせてもらうことになったんです。将来は小さくてもいいから自分のショップを持ちたいな」

重いものを持ち上げなければならないときには、女であることのハンデを感じることもある。そんな時はまわりの男性に助けてもらうんだけど、“力のなさ”は仕事の“ていねいさ”でカバーだ。「彼女の仕事は信用できる」とマッキーも太鼓判を押す。

チューニングカーに乗る女の子はずいぶん増えた。これからはチューニングを“仕事”にする女の子も増えてくるだろう。彼女にチューニングの魅力を聞いて最後にしよう。

「チューニングの魅力ですか? 私はエンジンが好きなんです。あの精密さがたまらないな。エンジンのシステムなんて最初はよくわからなかったんだけど、それがだんだんわかってくるにつれて興味が湧いて、おもしろくて仕方ないって感じで、本当にメカになって良かったと思います」

親は反対していないけど、友達が不思議がる。「どうしてそんなことやってるの?」って。「好きだから」彼女の答えはそれしかない。オイルにまみれて汚れる、とか手が荒れるとか、彼女にとってはなんの抵抗でもないのだ。

柴田淳子ちゃんの後には続く女の子はきっと多いはず。女性チューナーが谷田部の高速周回路に現れる日もそう遠くはないだろうな。